

# 英語版くすりのしおり®の実態調査と作成数増加の考察 (～2020東京オリパラに向けて～)

○黒川 寛之<sup>1)</sup>、栗原 理<sup>1)</sup>、工藤 香代子<sup>1)</sup>、平林 文子<sup>1)</sup>、橋口 佳恵<sup>1)</sup>、池田 薫<sup>1)</sup>、野村 香織<sup>2)</sup>  
 1) 一般社団法人 くすりの適正使用協議会 くすりのしおりコンコーダンス委員会 2) 東京慈恵会医科大学

## 【目的】

くすりの適正使用協議会(以下、協議会)では、くすりのしおり®(以下、しおり【図①】)を提供しているが、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて英語版しおりの作成数アップは重要な課題である。今回、薬剤師を対象に英語版しおりに関する使用実態を調査したので、この結果に更なる英語版しおりの作成数を増加させる考察も加えて報告する。

## 【方法】

(株)マクロミルケアネットによるインターネットリサーチ  
 [調査期間: 2018年4月2日～4月5日]

## 【調査対象】

しおりを認知している全国の薬剤師 515名  
 [病院勤務: 125名(24%)・薬局勤務: 388名(75%)・その他: 2名]

## 【結果】

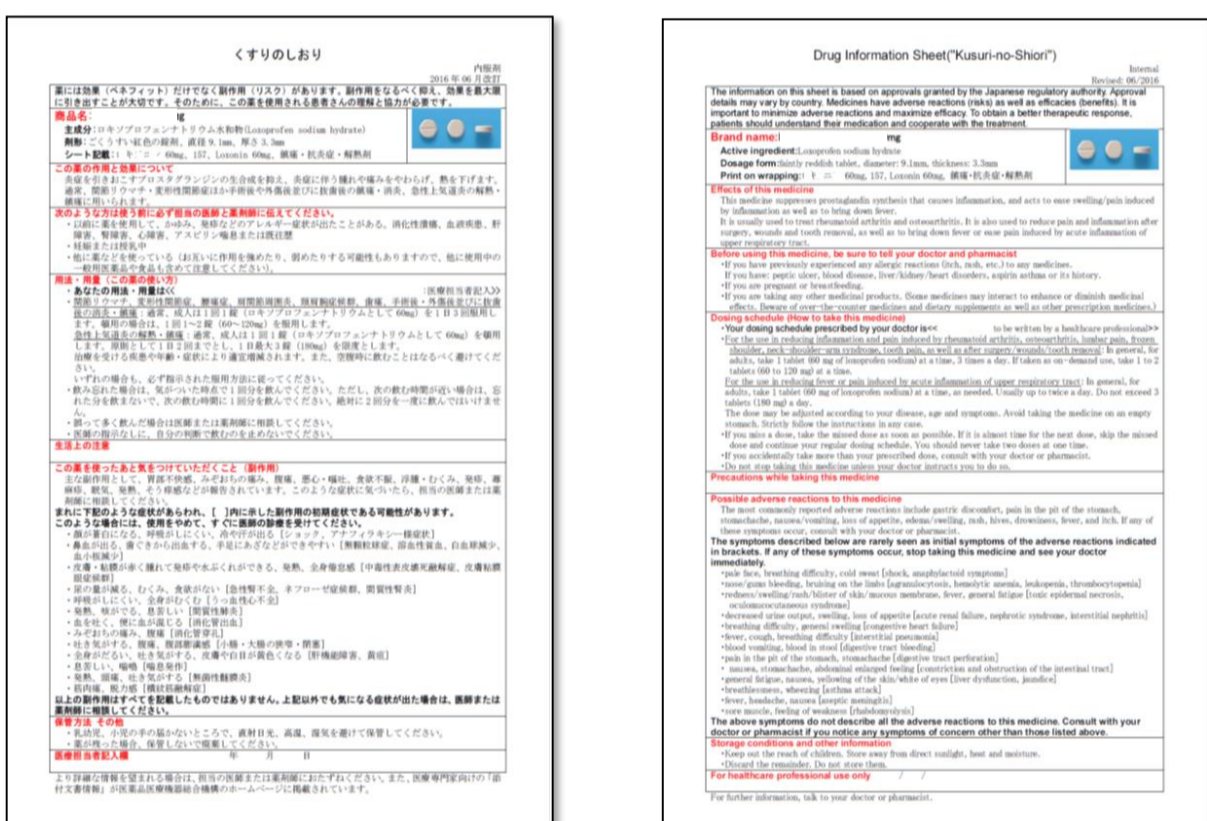
- 英語版しおりを、「使用したことがある」のは126名(25%)、「知っているが使用したことはない」145名(28%)、「知らない」244名(47%)であり、剤形別の日本語版認識率71～99.8%に比べ、英語版しおりの認識率53%は低かった【図②】
- 英語版しおりを「使用したことがある」126名での使用目的は(複数回答可)、「日本人患者が渡航の際に渡す」79名(63%)、「在住外国人患者に使用」59名(47%)、「来日外国人患者に使用」32名(25%)が上位であった。勤務先別で見ると、病院薬剤師では外国人に、薬局薬剤師では日本人に使用している比率が高かった【図③】
- 英語版しおりの認識者271名に、どこで知ったかを尋ねると、「日本語版しおりページの英語版ボタン」が53名(20%)で最も多かった【図④】

## 【図①】くすりのしおり®

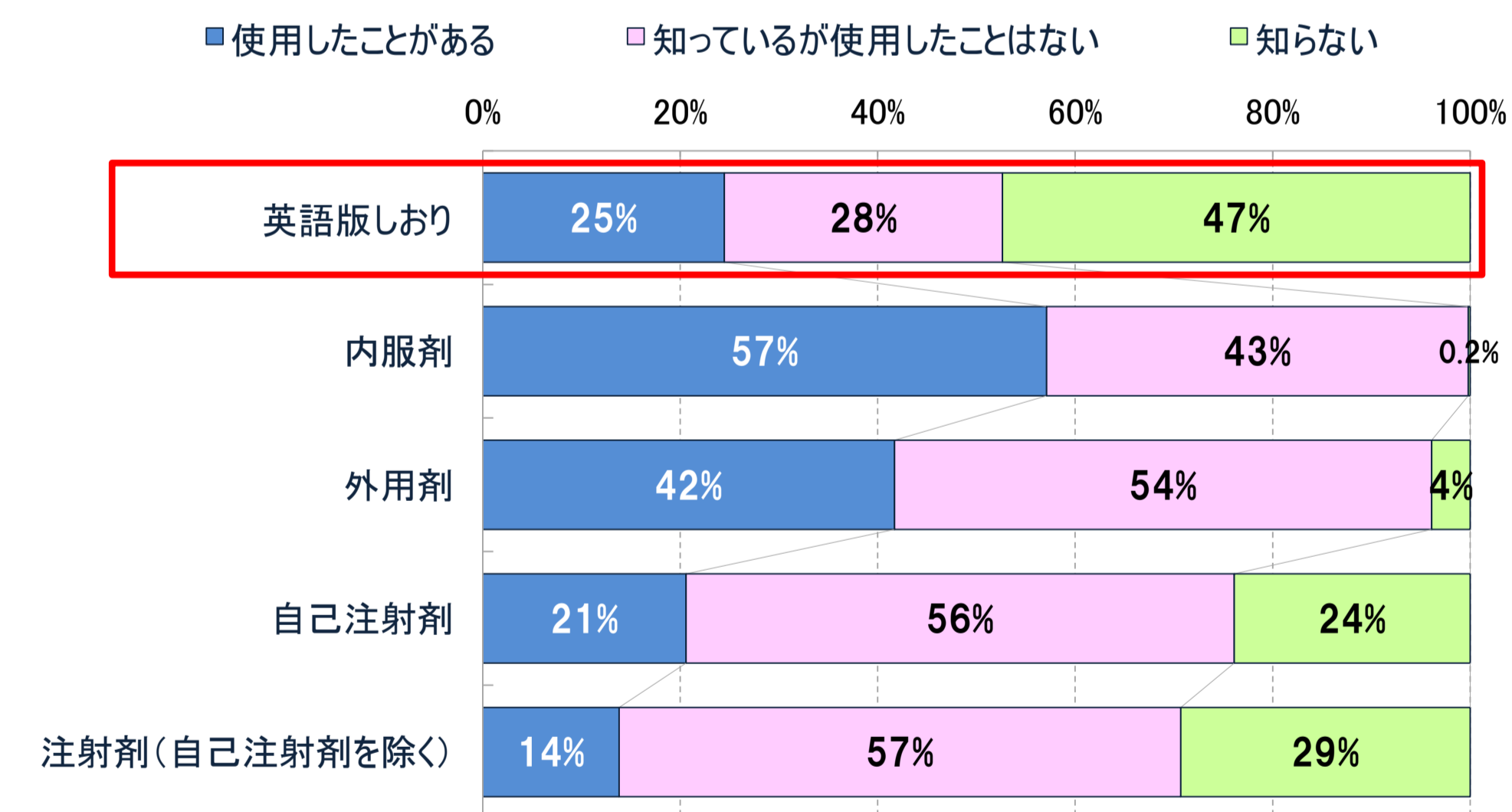
### くすりのしおり®検索サイト



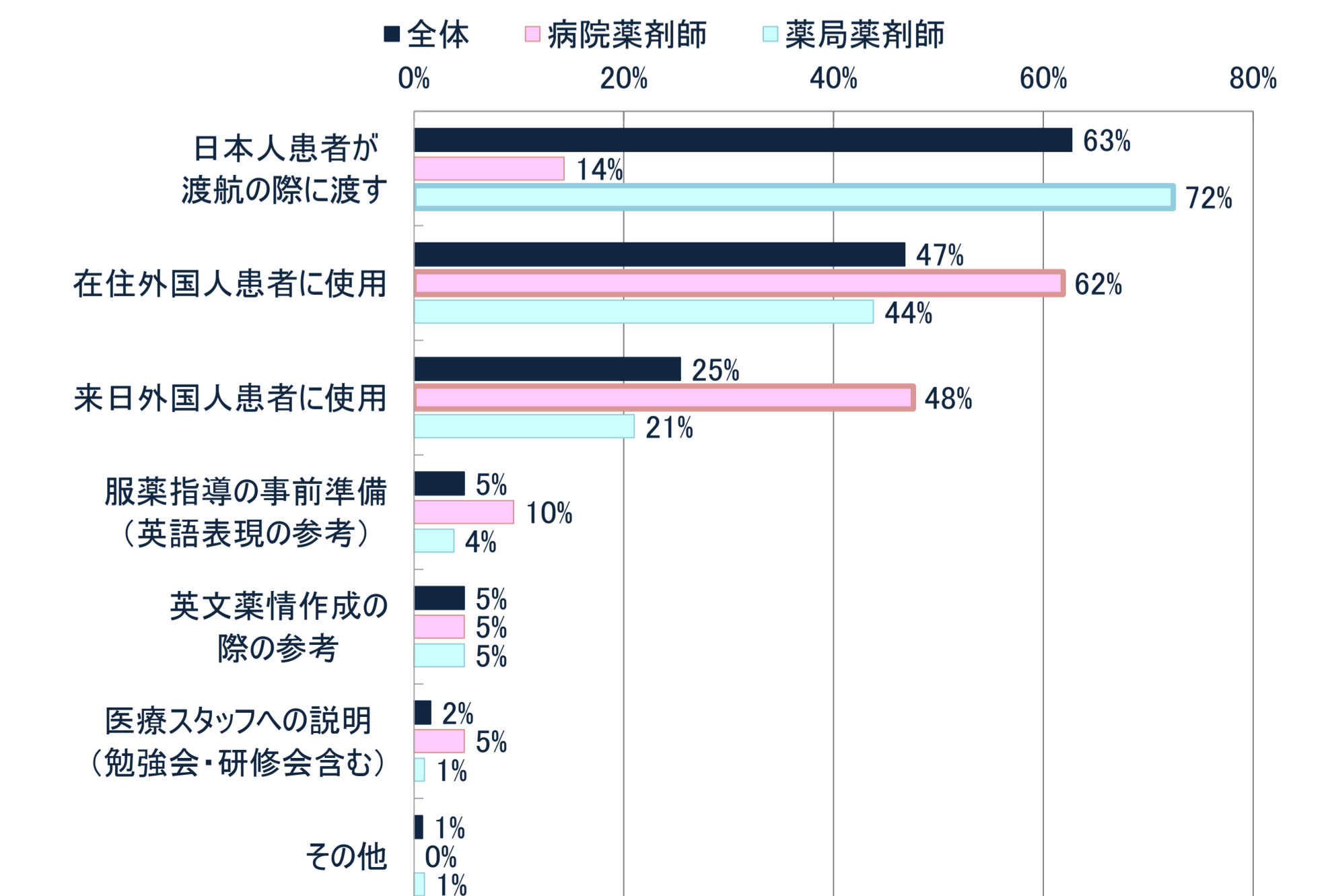
<http://www.rad-ar.or.jp/siori/index.html>



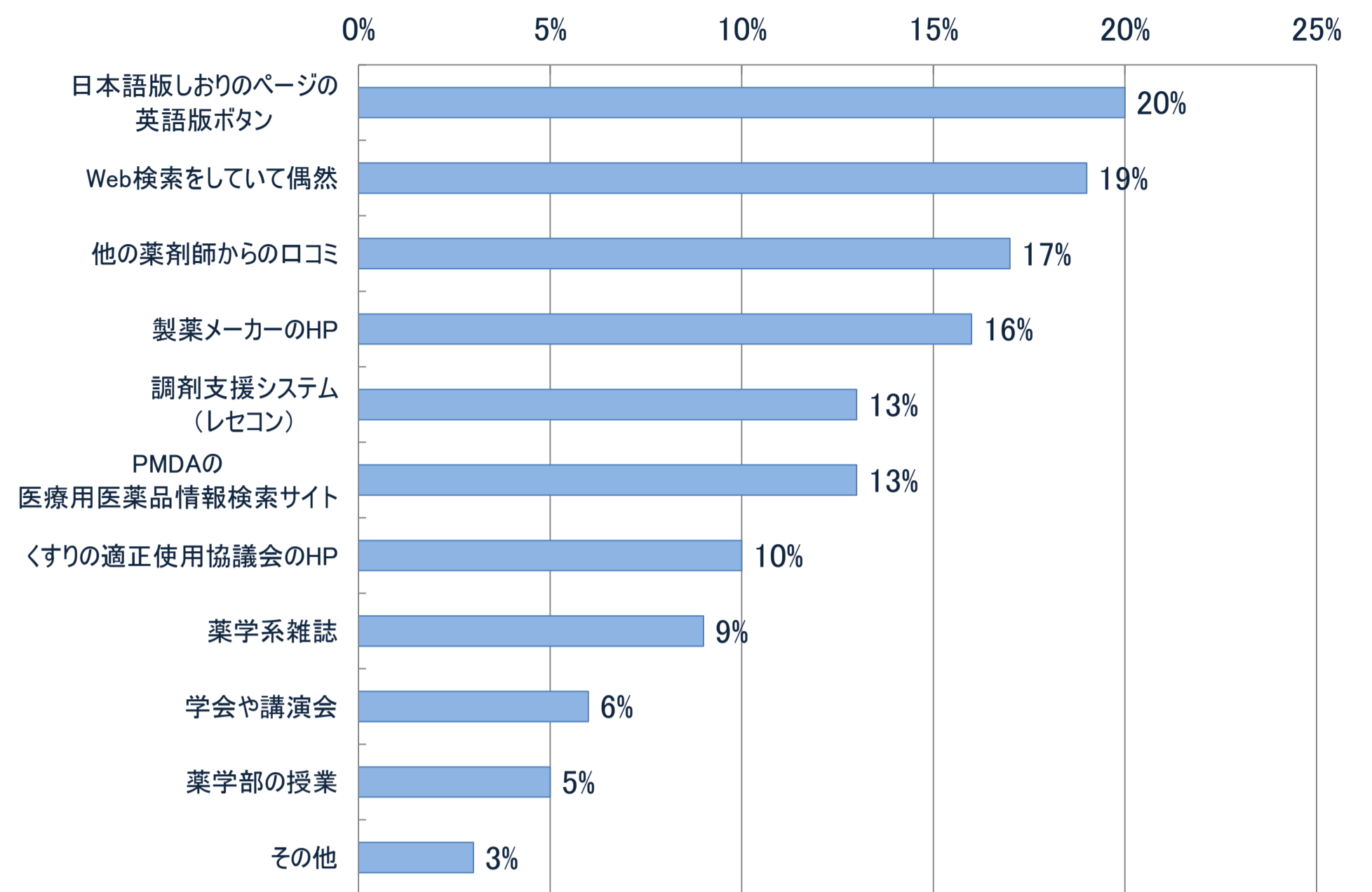
## 【図②】くすりのしおり®認識率と使用経験(n=515)



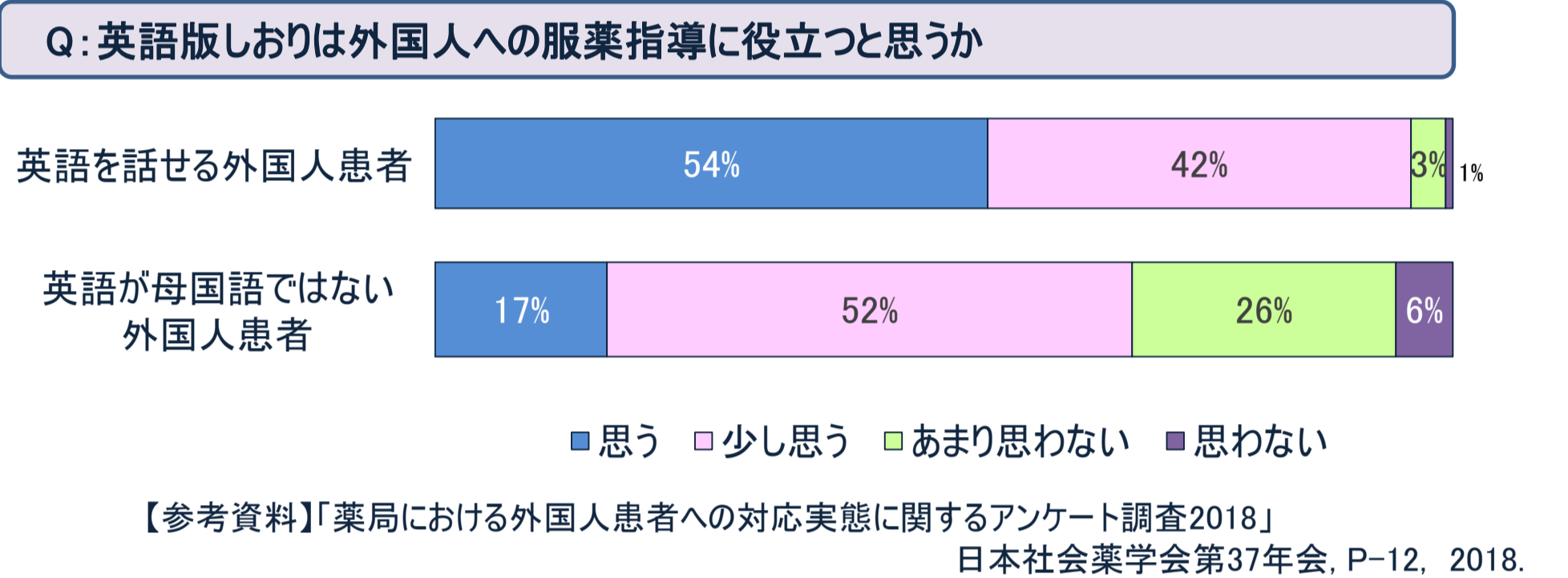
## 【図③】英語版しおりの使用目的(n=126、複数回答可)



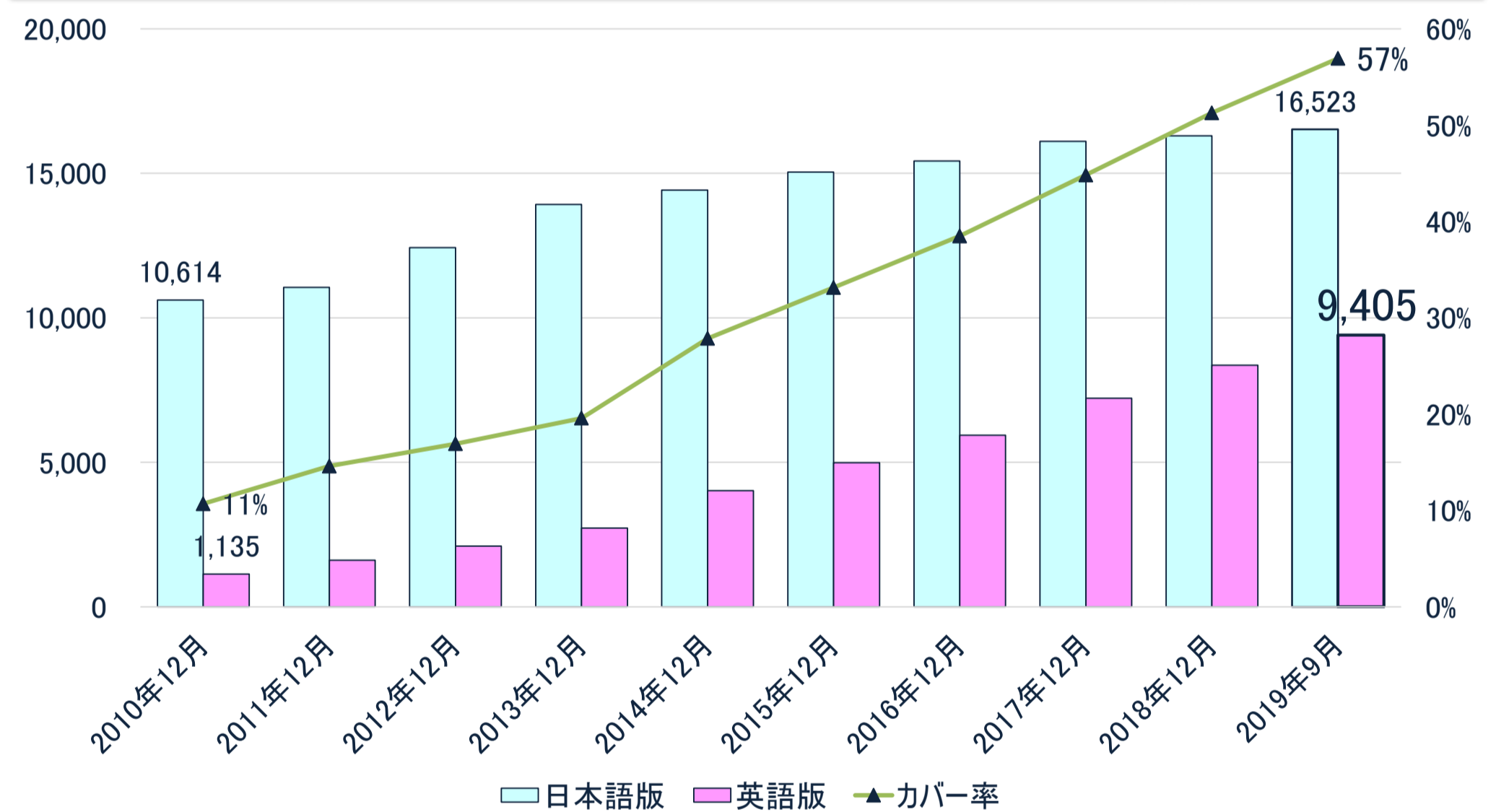
## 【図④】英語版しおりの入手先(n=271、複数回答可)



## 【図⑤】外国人に対する英語版しおりの有用性(n=409)



## 【図⑥】くすりのしおり®掲載数の推移



## 【図⑦】協議会HP改善の例



## 【考察】

2018年に協議会が保険薬局を対象に実施したアンケート調査では、英語版しおりが役立つと「思う+少し思う」との回答は、英語を話せる外国人患者に対して96%、英語が母国語ではない患者に対して68%であり【図⑤】、外国人に対する薬剤情報提供の場面で英語版しおりは役立つツールであると考えられる。一方、今回英語版しおりそのものの認識率が低いという課題が浮き彫りになった。但し、日本語版の認識率は高いことから、協議会HP上の日本語版ページを工夫することで英語版しおりの認識率を上げられると考えられた。2019年9月時点での英語版作成カバー率は57%に留まり【図⑥】、英語版掲載数の充実を図るために、協議会HPの改善【図⑦】、翻訳用参考資料の充実、英語版しおり未掲載品目に対する製薬企業への作成依頼等、更なる工夫を行っている。

COI開示 筆頭発表者名: 黒川 寛之 演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません